

北に一星あり

—小樽商科大学の発展をめざして—

第 一 集

1994年 3 月

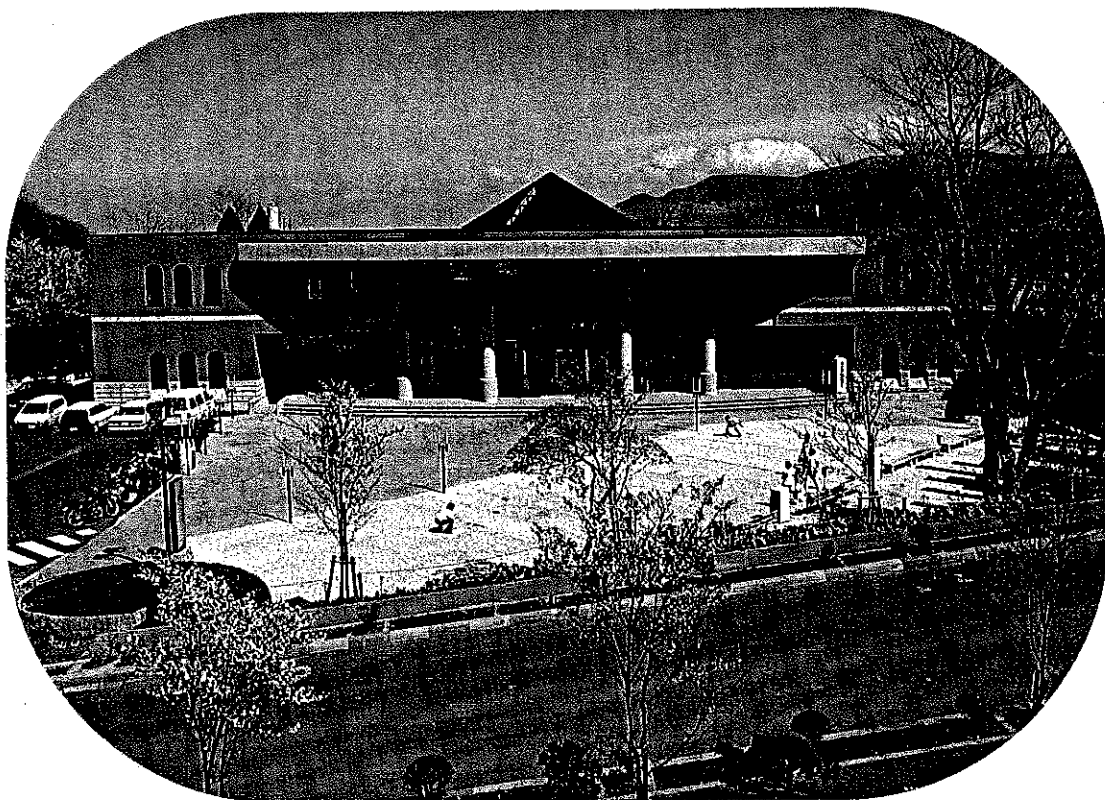
北に一星あり

地獄坂を登りつめると、「北に一星あり、小なれどもその輝光強し」とうたわれた小さな大学、小樽商科大学がある。

商学部の単科大学であるが、専門4学科を整備した実質的には社会科学系の総合大学であるといえる。21世紀を目前にしたいま、建学の理念をふりかえりつつ、「小なれどもその輝光」をより強くするよう本学の発展をめざす。

北に一星あり

—小樽商科大学の発展をめざして—



自己点検・評価報告書 第1集

「北に一星あり－小樽商科大学の発展を めざして（第1集）－」の発刊にあたって

学 長 山 田 家 正

我が国の近代の歴史の中で、明治維新、第二次大戦後に次ぐと言われる平成の変革期にあって、大学もまた改革の激動に曝されている。それも今までに大学が経験したことのない体質改善の改革である。周知の如く、18才人口の減少期に入り多くの大学が淘汰されるという危機感が現在横溢しているが、大学の危機が叫ばれたのは今始まったことではない。大学の教育・研究の質の低さ、創造力の弱さに対する指摘は数多くなされてきた。確かに、受験人口の減少とは別に、大学は改革を必要とする多くの問題を抱えている。本学は、その改革の必要性を認識していたが故に、自己点検・評価の意義を重く受けとめ、その作業に積極的に取り組んだのである。

自己点検・評価という作業は、大学の欠陥を自ら指摘し改善する指針を立て、実行する一連の作業である。形式的に報告書を出せば済むという程度のものであれば、貴重な時間を費やしてまで取り組む必要はない。将来の大学の発展に不可欠な作業であるとの共通認識があってこそ、初めて可能となる。

本学は小樽高等商業学校、小樽経済専門学校、そして小樽商科大学と小規模ながら、「北に一星あり、小なれどもその輝光強し」とうたわれたように、社会科学系の伝統ある個性的な、そして質の高い高等教育機関として存在してきた。しかし、その道は決して平坦ではなく、強く意識しないまでも、結果的にみれば自己点検・評価と言える作業を行ない、過去の経験を生かしながら新たな展望を切り開いてきた筈である。今本学が取り組んでいる点検・評価活動は、一つの組織として自ら、意識的に、定常的に、そして積極的に行なうことによって社会の負託に応えられる大学創りを目指すものである。

平成3年10月に教育・研究システム検討委員会が設置され、平成4年12月にそれが発展的に解消して自己評価委員会が設置された。その後自己評価委員会を中心に作業が進展し本学における自己点検・評価の目的・意義、あり方、項目、実施体制等の基本方針をまとめ、一部の実施主体の点検・評価の結果を含めて、平成5年6月には「小樽商科大学の自己評価（中間報告）」がまとめられた。更に作業は各実施主体において積極的に取り組まれその結果が本報告書に結実した。

このように、本報告書は平成3年から始まった小樽商科大学の自己点検・評価に関する一連の膨大な作業のまとめである。しかしながら、本学の自己点検・評価作業はこれで終了したわけではない。この報告書を第1集としたのは今後も追加しなければならない部分があること及び数年

後には再び同様の点検・評価作業が必要と考えている（される）ことを意味する。

本学の自己点検・評価活動の3原則は、自主性、公開性、活用性である。自己評価委員会はこの3原則を貫くことによって客観性と妥当性が確保できると述べた。このことを強く認識しておきたい。この困難な作業の牽引力となった自己評価委員会および作業に参加された教職員各位に敬意と感謝の意を表し、発刊にあたっての言葉としたい。

目 次

第 1 章	概 要	1
第 2 章	教育理念・目標及び将来構想	2
	1. 教育理念・目標	
	2. 将来構想	
第 3 章	一般教育問題	6
	1. 本学の一般教育	
	2. 本学の一般教育の現状と問題点・その評価	
	3. 一般教育に関する自己点検評価のまとめ	
	4. 専門学科の語学教育・保健体育に対する点検評価	
第 4 章	教育活動の現状分析と課題	17
	経済学科	
	商学科	
	企業法学科	
	社会情報学科	
	一般教育等	
	言語センター	
	(資料)	

第5章 大学院 96

1. はじめに
2. 本研究科の整備充実の検討経緯
3. 平成5年度における改革後の状況
4. 今後の検討課題

第6章 経済研究所 107

1. はじめに
2. 沿革
3. 組織
4. 活動状況
5. 自己評価

第7章 国際交流 113

1. はじめに
2. 国際交流の基本方針
3. 国際交流の組織及び事業基金
4. 学生交流事業
5. 学術交流
6. 留学生の受入れ状況と今後の方針
7. 留学生に対する支援体制の充実
8. 総合評価と今後の課題

第8章 本学の公開講座 122

1. 経緯
2. 問題の分析
3. 対策
4. 実施状況一覧

第 9 章 本学の教育に対する学生の意識 126

～アンケート調査の集計及び分析～

1 調査概要 2 学生の生活 3 入学に関連して 4 学科に関して 5 出席状況

6 授業の評価 7 学生の意見 8 学生の望む授業とは 9 おわりに

付録 1 アンケート調査集計表

付録 2 アンケート調査票

あ と が き 171